

平成 29 年度 第 1 回 諏訪市まち・ひと・しごと創生本部会議 会議録

○ 日 時

平成 29 年 11 月 6 日（月）午前 9 時～10 時

○ 会 場

諏訪市役所 201 会議室

○ 出席者

<本部長>

金子市長

<副本部長>

平林副市長、小島教育長

<本部員>

宮坂総務部長、木島企画部長、花岡市民部長、関健康福祉部長、大館経済部長、
小松建設部長、河西水道局長、土田教育次長、前澤議会事務局長

<幹事>

松木総務課長、池上秘書広報課長、前田企画政策課長、茅野財政課長、
柿澤地域戦略・男女共同参画課長、守屋こども課長、宮阪健康推進課長、金子商工課長、
細野観光課長、金子都市計画課長、寺島教育総務課長

<事務局>

伊藤企画政策係長、牛山企画政策係主査

○ 会議結果

- ・諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果、諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（案）について承認を受けた。

○ 会議概要

1 開会

（木島企画部長）

- ・第 1 回諏訪市まち・ひと・しごと創生本部会議を開催する。
- ・会議開催に先立ち、本部長である金子市長より挨拶をいただく。

2 本部長挨拶

（金子市長）

- ・平成 29 年度第 1 回の「まち・ひと・しごと創生本部会議」を開催する。平成 27 年 12 月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定してから 3 年目の中間年を迎えている。各部局において、総合戦略に基づき地方創生に向けた様々な取組を展開している。
- ・総合戦略には KPI（重要業績評価指標）を設定しており、施策の進行管理、効果検証を行

うこととしている。本日の会議では、各部署が提出した総合戦略の効果検証結果を確認、調整させていただく。その上で、11月20日に開催する「まち・ひと・しごと創生有識者会議」において、外部有識者の皆さんから効果検証にあたりご意見を伺う予定である。

- ・今後の諏訪市の地方創生の推進にあたり、それぞれの視点から積極的なご意見をいただきたい。

3 議事

(1) 第2回諏訪市まち・ひと・しごと創生有識者会議結果について

(2) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証結果について

(本部長)

- ・「(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」、「①効果検証手順」について、事務局より説明する。

(事務局)

※資料No.1に基づき説明

(本部長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。
(意見等なし)

(本部長)

- ・今年度においては、まち・ひと・しごと創生有識者会議に先立ち、まち・ひと・しごと創生本部会議を開催し、KPIの達成状況や施策の実施状況等、内容について全庁的に確認していただく。

(本部長)

- ・続いて、「②「数値目標」・「重要業績評価指標（KPI）達成状況一覧」」について、事務局より説明する。

(事務局)

※資料No.2に基づき説明

(本部長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。
- ・一之柱について、KPIの達成度で「努力が必要」が増加しているがどうか。

(本部長)

- ・人手不足の影響が大きいと感じている。様々な施策を打ち出しているが、実施結果が直ちにKPIに反映されるわけではない。
- ・今年度、新たな工業振興ビジョンを策定している。ビジョンに基づき、工業振興審議会において具体的な事業について協議を行い、平成31年度までには達成していきたい。

(本部長)

- ・人手不足は国の政策も関わることであり、人口減少による影響が大きい。日本全国が人手

- 不足の状況下で、総合戦略の構成を見直すべきなのか、人手不足をどのようにカバーしていくべきか、まち・ひと・しごと創生有識者会議においても意見を伺いたいと考えている。
- ・人手不足により社会増が難しいのであれば、さらなる子育て支援の充実により自然増への転換を図るなど検討する必要もあるが、そう簡単ではないと思う。
 - ・KPIの達成度が「順調」であっても、さらに目標設定のあり方を検討するなど、安心して施策を進めていただきたい。

(事務局)

- ・諏訪市の特徴的な傾向として、「「社員の子育て応援宣言」登録企業数」が多いことが挙げられる。平成28年度より開始した子育て企業サポート助成事業の効果もあり、製造業だけでなく様々な企業が登録しており、既にKPIの平成31年度目標値を達成している。シティプロモーションとしても宣伝できるのではないかな。

(本部長)

- ・二之柱のKPI「諏訪市移住促進人財バンク登録者数」について、「実績値なし」となっているが、0人だったということか。

(事務局)

- ・平成29年度より新たに開始される制度であり、平成28年度の改訂において、新たに設定したKPIである。そのため、実績値が入り達成度を評価するのは平成30年度の効果検証からとなる。

(本部長)

- ・三之柱のKPI「婚活イベント、セミナーへの参加者数」、「妊婦一般健康診査受診率」について、それぞれ基準値より増減があるが、達成度を「順調」や「努力が必要」としている判断基準は何か。

(事務局)

- ・「順調」は目標値以上、「概ね順調」は80%以上100%未満、「努力が必要」は80%未満を目安としており、この判断基準に基づき達成度を示している。
- ・「婚活イベント、セミナーへの参加者数」は実績値が目標値の80%未満であることから「努力が必要」、「妊婦一般健康診査受診率」は目標値が100%と高く設定されているが、わずかに実績値が届かなかったということで「概ね順調」としている。

(本部長)

- ・続いて、「③総合戦略効果検証結果（案）」について、事務局より説明する。

(事務局)

※資料No.3に基づき説明

(本部長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。

(本部長)

- ・一之柱のKPI「観光消費額」について目標値以上の実績となっているが「概ね順調」という達成度としている。また、「産業連携プロジェクト地域外参画事業者数」について、平

成 27 年度は目標値以上であったが「概ね順調」としているが、その理由を確認したい。

(事務局)

- ・まず、達成度の判断基準は目安である。
- ・また、「観光消費額」については、平成 28 年の目標値以上の実績値ではあるが、御柱祭の年であることから目標値を達成できたという理由もあり、担当課としては平成 29 年以降の観光消費額の状況を見極めたいということで、「概ね順調」という評価とした。
- ・「産業連携プロジェクト地域外参画事業者数」については、昨年度の効果検証において、平成 27 年度の目標値を達成することはできたが、平成 31 年度の戦略最終年度の目標値は達成できていないということで、担当課として「概ね順調」と評価した。なお、平成 28 年度は平成 31 年度の目標値も達成できたことから「順調」と評価している。

(事務局)

- ・KPI の達成度である「順調」と「概ね順調」の判断基準は目安である。施策を取り巻く情勢等を考慮し、担当課判断によって達成度を評価している。

(本部長)

- ・本部員各位に意見等を伺いたい。

(本部員)

- ・再生可能エネルギー等の施策については順調に進めることができている。
- ・全体として、目標値設定がネガティブになっているもの、自然減や社会減の抑制といった、これ以上減少することがないように減少幅を抑える KPI を設定しているものについて、今後の取組を考えていく必要があると思う。

(本部長)

- ・20 世紀の右肩上がりの時代ではなく、21 世紀は減少をいかに食い止めるかということが課題である。指摘のとおりであると考えている。

(本部員)

- ・出産や子育て支援について様々な事業を行う中で、PR 不足が否めない部分がある。平成 29 年度は子育て情報の一元化を図っており、今後も継続的に制度的な PR を行うとともに、行政として子育て中の母親に積極的に関わっていくといった、もう一步踏み出した施策が必要であると感じている。

(本部長)

- ・特定健康診査の受診率など、諏訪市が誇れる数字はあるが、もう少し努力が必要な部分もあろうかと思う。平成 31 年度の目標達成に向けて努めてほしい。

(本部員)

- ・経済関係の KPI については、様々な施策により種まきをしている段階である。長い目で見ていく必要があると考えている。

(本部長)

- ・総合戦略策定時にもっと考慮すればよかったが、諏訪市にはサービス業が多いという特徴がある。KPI「商店数」や「年間販売額」について平成 31 年まで目標値は現状維持として変えていない。製造業について企業誘致はハードルが高いが、商店については店舗リフ

ホーム補助金を創設するなど取組を進めており、取組内容を精査していく必要があると感じている。

(本部員)

- ・人手不足の中、都会の景気が良くなっているため生産年齢人口がなかなか増えない。
- ・諏訪市も製造品出荷額等が増加しているので景気は回復傾向にあると思うが、景気が良くなることで実績値が伸びる部分と厳しい結果となる部分が出てくる。どの KPI を伸ばしていくべきか、バランスを捉えることが難しいと思う。

(本部員)

- ・人口減少により水道事業の収入も減少している。温泉事業において新たな事業により収入確保を検討している。
- ・水道、温泉、下水道それぞれの永続性確保のため、老朽化したインフラ更新が必要となるが、売上が減る中で莫大な費用がかかることになる。インフラ更新需要により、市内事業者の受注は増えていくのではないかと。

(本部長)

- ・道路や水、温泉等は基本的なインフラであるが、そういった部分が魅力あるまちづくりの基礎となる。

(本部員)

- ・KPI 設定のあり方について検証が必要であると考え。単純に利用者や時間数が増えればいいということだけでなく、取組内容の質の向上に課題があると思う。市民満足度への影響なども考慮していきたい。
- ・住んでいる人たちの満足度を高めることと、新しく諏訪市に来る人たちに対して PR することについても分析していきたい。
- ・KPI の達成状況から課題として受け止めていることが、実施計画となかなか結び付かない実情がある。

(本部長)

- ・諏訪市に魅力があり住みたいと思う人を増やすために、教育の観点からも魅力アップを図る必要があると思う。

(本部員)

- ・今後、多死社会となり自然増を望むことは難しいため、自然減をいかに抑制していくのが課題となる。
- ・景気回復により都会で就職する人が増えているが、地元で希望する職種がないために帰って来ないことも理由であると思う。学生にとって魅力ある仕事があれば戻ってくる人も増える。求人と求職のミスマッチ解消が必要である。

(本部長)

- ・「(2) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂(案)について」、事務局より説明する。

(事務局)

※資料No.4 に基づき説明

(事務局)

- ・本日の会議を受けて、他に改訂が必要な箇所があれば、会議終了後でもよいのでご提案いただきたい。

(本部長)

- ・ただいまの説明について、質問・意見をお伺いしたい。
(意見等なし)

(本部長)

- ・「(1) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」、「(2) 諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂(案)について」、いただいた意見等に対して再度調整、修正を行った上で、11月20日開催の「まち・ひと・しごと創生有識者会議」の議題として、外部有識者の意見を伺いたいが、承認をいただきたい。
(異議なしの声)

(本部長)

- ・諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び改訂(案)について承認いただいた。

4 その他

(木島企画部長)

- ・その他連絡事項について、事務局より報告したい。

(事務局)

- ・諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び改訂(案)について、修正や追加がある場合は、11月9日(木)までに企画政策課までご連絡いただきたい。

5 閉会

(小島教育長)

- ・教育委員会ではゆめスクールプランの策定を進めている。学校について議論する中で、人口減だけでなく人口増施策も踏まえて検討するべきという意見が出された。しかし、総合戦略に基づき様々な取組を進めているが人口はなかなか増えない状況にある。時代を突破できるようなアイデア、キーワードがあればと思っている。

(平林副市長)

- ・商工課による景況調査では概ね堅調であるとされているが、現在の経済状況は3年後の東京オリンピックまでと言われている中で、世界的な大企業のモラルの問題、特に自動車産業で相次ぎ問題が発覚している。いわゆる日本神話の揺らぎになるのではと懸念している。
- ・NPO 法人のアンケート調査では、労働者の支援をしている企業は少ないという記事が掲載されていた。
- ・過日、諏訪市勤労者互助会において神戸市にある財団を視察した。一緒に視察をした社長さんが注目したのは、小さな事業ではあるが、財団が家庭の常備薬の斡旋を行い、マージンを取っていることであった。規模は異なるが、今後の取組にあたり示唆を得ることができた。

- 行政としてまちづくりを進める中で、市長からは知恵を出すよう言われている。こうした考え方や視点を大事にしていきたいと思う。
- 総合戦略に基づきまち、地域の魅力を向上していくには、小さな気付きの積み重ねが必要である。KPI を常に念頭に置くことは難しいが、KPI 達成に向けて視点を変えていってほしい。